

下榎交流センターだより

老人憩の家事業

ぽかぽか教室 「認知症について考える」

12月11日、下榎老人憩の家において「認知症について考える」をテーマにしたぽかぽか教室を開催しました。

講師に、"認知症の人と家族の会"代表の吉野立さん^{りゆう}を迎え、約90分にわたり歓談を交えながら貴重なお話を聴きました。

当日は下榎の住民をはじめ、他地区の方々、看護師や関係職員など22人が参加し、熱心に耳を傾けていました。

吉野さんにお話いただくのは、今回で3回目となりますが、毎回新たな気づきがあります。今回は特に「家族が良かれと思っている行動が、本人のやろうとする気持ちや力を奪ってしまう事がある」という話が印象に残りました。「自分の方が早くできるから」「危ないと思うから」と、結果としてつい先回りしてしまうことが本人の自立を妨げ、認知症の進行につながる場合があるという指摘に、多くの参加者が考えさせられる時間となりました。

認知症は、家族や地域が全体で理解し支えていくことが大切です。今回の講演は、認知症の方が安心して暮らせる地域づくりについて、改めて考える良い機会となりました。



～料理教室～

11月17日、年内最後の料理教室を開催し、秋の味覚を使った野菜モリモリの料理を作りました。参加者とスタッフ、合計10人で、いつもと同じく、わいわいがやがやと楽しい料理教室となりました。

まず、町管理栄養士の森本さんからメニューとレシピの流れを簡単に説明してもらいました。その後、キッチンへ移動するとそれぞれが、拡大コピーされた手順を声に出して読み上げ、料理を開始しました。手の空いた人はすぐに補佐に回り役割を果たすなど、チームワークが良かったので、予定の時間より早く進みました。

今回のデザートは、手軽に作れるものでしたが、なかなか思いつかない材料だったので、その発想に皆さんびっくりしていました。毎回美味しい詰まった楽しい料理教室に、皆さんの笑顔が満足度を表しているようでした。



【料理献立】

- ・キノコのまぜごはん
- ・さつまいもと豚肉のレモン醤油いため
- ・えのきとチンゲン菜のおひたし
- ・野菜たっぷり和風スープ・スイートポテト



※料理教室参加の皆さんからの希望で、令和7年度の締めくくりとして、令和8年3月に料理教室を行うことを決定しました！日程・メニュー等の詳細は改めて広報ひの2月号にてお知らせいたします。お楽しみに！

編集 日野町下榎交流センター
〒689-4526 日野町下榎 157番地1
電話：72-1191 (FAX兼)
E-mail: rinpokan@town.tottori-hino.lg.jp



▲飾り付けられた昭和3年の根雨中町付近

昭和年表

25年	24年	23年	22年	21年	20年	19年	18年
誕生。	4月、菅福公会堂が完成。	6月、朝鮮戦争勃発。特需景気が起こる。	10月1日、日野村・根雨町合併し新根雨町。	5月1日、根雨町と黒坂町が合併し新日野町が誕生。	・4月、県立根雨高等学校、日野農林学校（現日野高校）が開校。	・世界大恐慌始まる。とくに農村の不況が進行する。	・2年から5年にかけて、地区婦人会が設立。のち国防婦人会と改称される。
34年	33年	32年	31年	30年	29年	28年	27年
35年	34年	33年	32年	31年	30年	29年	28年
36年	35年	34年	33年	32年	31年	30年	29年
38年	37年	36年	35年	34年	33年	32年	31年
39年	40年	41年	42年	43年	44年	45年	46年
40年	41年	42年	43年	44年	45年	46年	47年
41年	42年	43年	44年	45年	46年	47年	48年
42年	43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年
43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年
44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年	51年
45年	46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年
46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年
47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年	54年
48年	49年	50年	51年	52年	53年	54年	55年
49年	50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年
50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年
51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年
52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年
53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年
54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年
55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年
56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年
57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	64年

来、平成を経て、去る令和7年12月26日で100年を迎えたわけです。今回は、この間の昭和時代に限つて追想します。

60年の長きにわたつて続いたため、昭和の前半は戦争と戦後の後半とで、まったく様相が異なる社会でした。

100年前の大正15（1926）年12月25日に大正天皇が亡くなり、翌26日ただちに昭和天皇が即位され、昭和元年が始まりました。同年3月5日には、全国で「御大典祝賀式典」が開催されました。町内では、旧根雨小学校講堂（現山村開発センター）で、児童と校区内から参集した約600人が整列の上、ラジオから聞こえてくる全国放送を拝聴しました。根雨中町付近の飾り付けのまわりでは、着飾つた

日清戦争から太平洋戦争終結まで、実に町民379人が戦病死しています。まさに激動の時代でした。戦争が大きな転換点であり、前半は軍国主義、戦後は荒廃した郷土の立て直しのために各人が必死に努力した時代でした。

平和と民主主義と経済発展。文化の多様化という面では、アメリカ文化の影響を受けつつも、日本独自の文化が発展する時代です。アニメやマンガ、歌謡曲などですね。

あなたにとつて昭和が良かつたと思えるのはどんなどろだつたでしようか。スマホが無い気楽さと健康的な暮らし。高度成長による生活の安定と活気、人情味あふれる温かい地域の人間関係、自由で面白かつた文化や娯楽。伝統的な生活や食習慣。そして「みんなで子育て」といったおおらかな社会でしたね。今より明日が良くなると誰もが信じていた活力に満ち溢れていた時代ではなかつたでしようか。

やがて都会がいちばん、田舎はつまらない、という意識が蔓延しました。その結果、東京の一極集中が始まり、その傾向は深化しています。平成を経て令和のいま、町の風景も大きく変わりました。空地を見て、元の建物や亡き人々の笑顔を懐かしく思い出し、家族や知人友人と話すことは、101年目を生きる私達に大切なことではないでしょうか。